

# シーニックバイウェイ北海道

## 制度のご案内

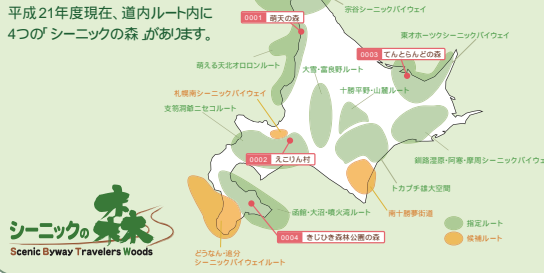


## シーニックバイウェイ北海道における CO<sub>2</sub> 削減など 地球環境へ配慮した新たな取り組み

シーニックバイウェイ北海道推進協議会では、平成17年度よりエコドライブの普及、推進によるCO<sub>2</sub>排出削減に取り組んでまいりました。平成19年8月には、地球環境問題への社会的要請の高まりを受けて、基本方針に「二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)削減など地球環境への配慮」を位置付け、「CO<sub>2</sub>削減の取り組み」、「シーニックバイウェイ・カーボンオフセット」の活動の手引きを作成しました。

### ～シーニックの森づくり～

「シーニックの森づくり」は、シーニックバイウェイの取り組みを通して、観光客や地域住民、NPO、関係機関、企業等が連携し、CO<sub>2</sub>吸収源となる森づくり(植樹や維持管理)を行うものです。また、シーニックの森づくりの取り組みのひとつとして、ドライブ観光でどうしても排出してしまうCO<sub>2</sub>を吸収するための植樹活動を、観光客の参加・費用負担のもとで行う「シーニックバイウェイ・カーボンオフセット」と一体で行うものであり、CO<sub>2</sub>排出量に対し自ら植樹するCase.1と、代行者が植樹するCase.2の2つがあります。



## 一般社団法人 シーニックバイウェイ支援センター

シーニックバイウェイ支援センター(略称:リソースセンター)は、シーニックバイウェイの理念を浸透させるための広報活動を行います。また、活動の活性化に不可欠な民間と行政との連携を図り、これらの連携を専門的な観点から下支える組織として、美しい景観づくり、魅力ある観光空間づくり、活力ある地域づくりに貢献します。

### シーニックバイウェイ支援センターの目的

日本におけるシーニックバイウェイの持続的な推進・普及・発展を支援することを目的としています。

### シーニックバイウェイ支援センターの事業内容

1. シーニックバイウェイに関する情報共有・発信・連絡
2. シーニックバイウェイに関する各種調査・研究
3. シーニックバイウェイに関する広報・プロモーション
4. シーニックバイウェイに関する人材育成・教育・資格認定
5. 各種団体の連携を促進するためのコーディネート
6. 前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

### 主な業務

- ・ホームページの運用
- ・メールリストの運用
- ・各種出版物の発行
- ・広報誌の発行
- ・シーニックフォト倶楽部の運営
- ・勉強会の開催
- ・ビジネスモデルの開発
- ・ロゴマークの管理委託
- ・刊行物等の制作・販売
- ・視察の企画・受け入れ
- ・米田視察企画
- ・シーニックドライブマップ
- ・「シーニックの森」の認証

### お問い合わせは

〒060-0051 札幌市中央区南1条東2丁目11番地 南1条タカバビル2F  
 電話:011-204-7107 FAX:011-204-7108  
 E-mail: info-sc@scenicbyway.jp URL: http://www.scenicbyway.jp/

## 沿革

- 平成13年8月 平成14年度の国土交通省重点施策として取り組むことを公表。
- 平成14年3月 米国のシーニックバイウェイプログラムの実施状況を調査。日本と米国の制度運営上の社会環境の相違点を把握。
- 平成15年2月 「北海道におけるシーニックバイウェイ制度導入モデル検討委員会」(委員長=石田東生筑波大学教授)を設置。試行期間での取り組みを検討開始。
- 平成15年4月 旭川-占冠ルート、千歳-ニセコルートの2つをモデルルートに指定。シーニックバイウェイの取り組みに賛同する地域活動団体を募集。
- 平成15年7月 活動団体の認定。32団体(平成16年には38団体)が認定され、シーニックバイウェイ北海道のモデルルートとしての活動をスタート。
- 平成16年9月 モデルルートで集中活動月間を実施。期間中景観ポイントや地域固有の情報を入手できるシーニックバイウェイ情報拠点を設置。
- 平成16年9月 アメリカ・バイウェイ・リソースセンターのヘンリー・ハンカ所長来日。モデルルートを視察。
- 平成16年10月 両ルートの活動団体のメンバーが参加し、米国シーニックバイウェイの視察を実施。
- 平成16年10月 制度案素案についてパブリックコメントを実施。
- 平成17年2月 「北海道におけるシーニックバイウェイ制度導入モデル検討委員会」最終委員会において報告書をまとめる。
- 平成17年3月11日 シーニックバイウェイ北海道推進協議会設立。ルート提案の募集開始。
- 平成17年5月9日 支笏洞爺二セコルート、大雪山・富良野ルート、東オホーツクシーニックバイウェイの3つが指定ルートとして、函館・大沼・噴火湾ルート、釧路湿原・阿寒・摩周ルートの2つが候補ルートとして認定される。
- 平成17年6月 正式ルート指定後、初の集中活動月間を実施。
- 平成17年9月 集中活動月間の実施。
- 平成17年10月 活動団体が参加した米国シーニックバイウェイ視察を実施。
- 平成17年11月 シーニックバイウェイ北海道の支援組織として「有限責任中間法人シーニックバイウェイ支援センター」が指定される。
- 平成18年2月 冬の集中活動月間を実施。
- 平成18年4月18日 宗谷シーニックバイウェイが新ルートとして、南十勝夢街道、十勝平野・山麓ルート、萌える天北オロロンルートの3つが候補ルートとして認定される。「シーニックバイウェイ・ドジャーマント」の実施。
- 平成18年6月 「シーニックバイウェイ北海道」みち「からはまる地域自立」が発刊。
- 平成18年11月13日 函館・大沼・噴火湾ルート、釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイが候補ルートから指定ルートに認定される。
- 平成19年5月 「シーニックドライブマップ」の発刊。
- 平成20年5月12日 萌える天北オロロンルートが候補ルートから指定ルートとして、どうなん・追分シーニックバイウェイ、トカプチ雄大空間の2つが候補ルートとして認定される。シーニックの森づくりはじまる。森の認定スタート。
- 平成20年8月 十勝平野・山麓ルートが候補ルートから指定ルートとして、札幌南シーニックバイウェイが候補ルートとして認定される。
- 平成21年5月13日 十勝平野・山麓ルートが候補ルートから指定ルートとして、札幌南シーニックバイウェイが候補ルートとして認定される。
- 平成22年5月17日 トカプチ雄大空間が候補ルートから指定ルートに認定される。

## シーニックバイウェイ北海道推進協議会構成団体・機関

北海道商工会議所連合会、北海道経済連合会、北海道商工会連合会、北海道観光振興機構、日本観光協会北海道支部、日本旅行業協会北海道支部、北海道農業協同組合中央会、北海道林業協会、日本自動車連盟北海道本部、北海道市長会、北海道町村会、北海道、林野庁北海道森林管理局、経済産業省北海道経済産業局、環境省北海道地方環境事務所、国土交通省北海道運輸局、国土交通省北海道開発局

## 発行

シーニックバイウェイ北海道推進協議会事務局  
 TEL:011-709-2311 詳しくは▶URL: http://www.hkd.mlit.go.jp/sbh/

〒060-8511 札幌市北区北8条西2丁目 札幌第一合同庁舎 国土交通省北海道開発局 開発監理部 開発調整課 建設部 道路計画課




シーニックバイウェイ(Scenic Byway)とは、景観・シーン(Scene)の形容詞シーニック(Scenic)と、わき道・より道を意味するバイウェイ(Byway)を組み合わせた言葉。地域と行政が連携し、景観や自然環境に配慮し、地域の魅力を道でつなぎながら個性的な地域、美しい環境づくりを目指す施策です。

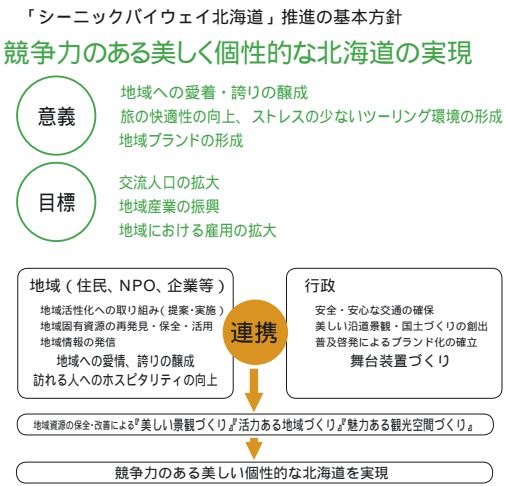
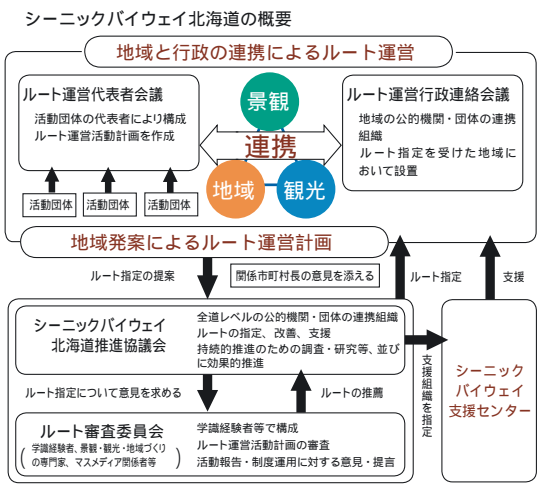
# シーニックバイウェイ北海道

## みちが繋ぐ美しい北海道づくりが始まります。

シーニックバイウェイ北海道は、みちをきっかけに地域住民と行政とが連携し、美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある観光空間づくりを提案します。平成17年度から本格的にスタートしました。

 シーニックバイウェイ  
オフィシャルマークについて

地域の人たちが主体となって取り組む「美しい景観づくり」や「魅力ある観光空間づくり」の熱い心は訪れる人たちに感動のココロを呼びおこします。「心とココロ」が出逢う時「活力ある地域づくり」が動き出します。「道」をハートの形にしたオフィシャルマークは、いわば「シーニックバイウェイ制度の心」です。



## シーニックバイウェイ北海道で行われている主な活動

<h3>美しい景観づくり</h3> <p>活動団体や地域間の連携などにより、沿道景観をより魅力的にする活動。</p>  <p>看板の撤去 植栽活動による広域的な花ロードづくり 現地調査によるルート内の沿道景観診断 地域資源の広域的視察・発掘調査 広域的な看板の撤去・集約化や統一性のある看板整理の提案 ビューポイントの調査・維持管理</p>	<h3>活力ある地域づくり</h3> <p>地域資源を生かしたまちづくりの勉強会など、地域の誇りを育む活動。</p>  <p>全道フォーラム まちづくりのシンポジウムや講演会などの開催 沿道景観をテーマにしたフォトコンテストの実施 歴史的建造物など、地域資源を生かしたまちづくりの勉強会 外国人旅行者へのホスピタリティ向上のための英会話講座 周遊ルートづくりや気軽に立ち寄れる案内所の開設</p>	<h3>魅力ある観光空間づくり</h3> <p>旅行者の満足度向上を目指し、観光メニューの創出、イベントの実施、情報発信など。</p>  <p>ウィンターサーカス 地域を再発見、紹介するツアー、イベントの開催 冬のビューポイント、冬の観光メニューの調査・開発 ビューポイントを紹介したフリーペーパー、マップ、ホームページ、英語版ガイドブックなどの作成 メーリングリストによる活動団体の情報共有、意見交換</p>
---	---	--

### 行政の取り組み例

<h4>景観視点場の整備</h4> <p>道路管理者と地域が連携し、来訪者が安心して利用できる駐車帯と、撮影スペースの整備を進めています。</p> 	<h4>活動団体等による清掃・美化活動</h4> <p>地域の活動団体等による、駐車帯周辺の枝払い、ごみ拾いなどの清掃・美化活動が定期的に行われています。</p> 
---	---

## シーニックバイウェイ北海道 Q & A

どうして「シーニックバイウェイ北海道」に取り組むことになったのですか？

北海道をドライブする個人型の旅行が人気となっています。アンケート調査によると、その一番の目的は「景観を楽しむこと」。このため、景観をもっとよくなり、守ったりすることが、これからの北海道観光を振興し、地域を元気にするために重要な取り組みであると考えました。そしてこの取り組みを進めるにあたって、行政が参加しながらも、地域の方々が自らの発案により行うことが、成功させるためには必要と考えました。このため、平成15年、16年に地域の方々から行政が連携して様々な取り組みを試行的に実施し、その成果を踏まえ、平成17年3月より「シーニックバイウェイ北海道」として本格的にスタートしたところです。

なぜ「シーニックバイウェイ」という名称なんですか？

「シーニックバイウェイプログラム」はアメリカで先行的に取り組まれている制度ですが、これを参考にしつつも、北海道にあった仕組みとしたため、アメリカのものとは異なる制度となりました。しかし「政府が進めるプロジェクトの一環として外国人観光客へのPRをしやすいくこと」「日本語の概念になり取り組みであること」「寄り道

バイウェイ」という概念がよいこと」などの理由から、学識経験者や観光の専門家からなる委員会にて「シーニックバイウェイ北海道」と命名されました。なお、現在、全国を対象とした「日本風景街道」という取り組みが広がっているところで。

地域の方の発案が必要というはどうしてですか？

沿道の景観を作っているのは、農業や林業、街中の商店街など地域の方々の営みです。地域の方々元気に暮らせ、経済的にも豊かになり、街中生活の営みが維持されることが、そのまま沿道の風景の保全につながると思われまます。これら「景観」「観光」「地域」という三つの要素を「道」を通して連携させ、地域を元気にする取り組みが「シーニックバイウェイ北海道」として望ましいと考えます。

中心となっているのは誰ですか？

活動の中心は地域の方々です。この取り組みは「みち」をきっかけとして、地域の方々の主体的な取り組みを「シーニックバイウェイ北海道推進協議会」といって総合的な組織でバックアップするものです。「シーニックバイウェイ北海道推進協議会」は、北海道商工会議所連合会や北海道観光連盟、北海道農業協同組合中央会などの道内の経済団体、北海道や国の出先機関などの行政機関で構成され、事務局はこの取り組みを始めた国土交通省の地方支分部局である北海道開発局が担当しています。

支援組織の「有限責任中間法人シーニックバイウェイ支援センター」って何ですか？

シーニックバイウェイにかかわる情報共有、発信、連絡、及び広報、プロモーションと各ルートの活動へのアドバイスをするための機関で、2005年7月に設立され、シーニックバイウェイ北海道推進協議会の実施要綱・第17条で定める基本方針に基づき、支援組織として指定されている唯一の機関です。

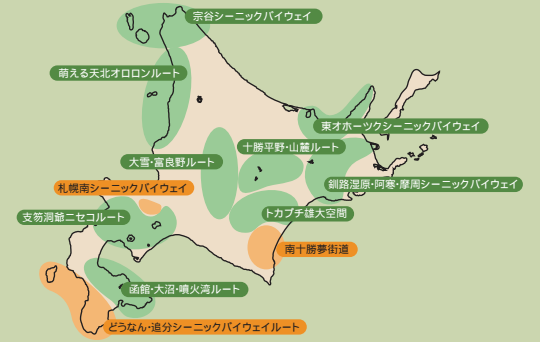
この取り組みに参加するとどんな支援があるのですか？

指定ルートでは、「行政連絡会議」が設置され、関係機関により、各種活動への参加、連携した活動などが行われるとともに「有限責任中間法人シーニックバイウェイ支援センター」によって、広報・プロモーションなどが積極的に行われます。また、候補ルートでは、指定ルートの申請に必要な「ルート運営活動計画」を地域の方々から作成するにあたり、ワークショップの開催や参加など運営計画策定のお手伝いに関係機関が行います。

観光客や一般の人の認知度はどうですか？

旅行代理店やレンタカーの会社が「シーニックバイウェイ北海道」を取り入れた商品を発売したり、旅行者に地図を配布するなど、北海道観光に「シーニックバイウェイ北海道」が徐々に浸透しています。旅行雑誌などにも大きく掲載されています。

# シーニックバイウェイ北海道

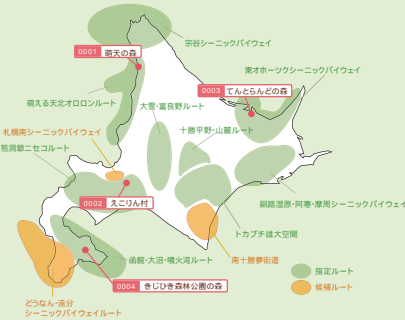


## シーニックの森づくりとは

シーニックバイウェイ北海道では 2005 年度より CO<sub>2</sub> 削減に配慮したエコツーリングの提案や、ドライブ観光の際に排出される CO<sub>2</sub> を植樹によって埋め合わせる「カーボン・オフセット」に取り組んでいます。

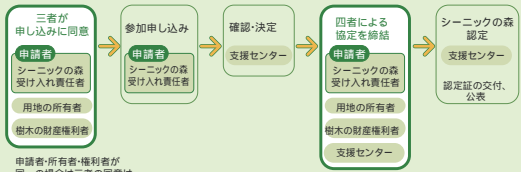
この取り組みの一環として「シーニックの森」づくりを 2008 年度からスタートしました。「シーニックの森」で、北海道を訪れた観光客のみなさんに費用を負担していただき、ドライブで排出された CO<sub>2</sub> を、植樹によりオフセットしてもらうのです。

植樹を通して地域とのふれあいや関心を深めるとともに、ドライブで排出している CO<sub>2</sub> を樹木がどれ位の期間で吸収するか実感を持って認識いただくことで、環境に配慮したドライブ観光を目指しています。



シーニックバイウェイ支援センターは、2008 年 5 月 12 日にシーニックバイウェイ推進協議会より「シーニックの森」の認定機関の指定をうけました。シーニックバイウェイ北海道の各ルートから申請を受け審査し「シーニックの森」として確認を行うほか、「カーボンオフセットのための植樹を行いたい方」「シーニックの森づくりに参加したい方」「カーボンオフセット型のツアーを企画されている方」への対応を行います。

### シーニックの森認定までの流れ



申請者・所有者・権利者が同一の場合は三者の同意は必要ありません。

## シーニックの森づくり シーニックバイウェイ・カーボンオフセット が目指すもの

環境に優しい新しい旅の形を一緒に育てたい  
 多くの人に地域の宝を見てもらうためには、車の利用が必要となり CO<sub>2</sub> をどうしても排出してしまいます。地球に負担をかけないために、多くの人に森づくりに参加してもらい、楽しみながら環境にも優しい、新しい旅の形を広めて行きたいと思っています。  
 地球環境のことを考えるきっかけにしてほしい  
 成長が早いといわれているトドマツは 30 年間で約 12 m に高さに成長しますが、固定できる CO<sub>2</sub> の貯蔵量は 1 本あたり、ガソリン約 70L にすぎません。エコツーリングなど日々の生活での CO<sub>2</sub> 削減にこれまで以上に 取り組むきっかけにして欲しいと思っています。  
 訪れる方との出会いを大切に育てたい  
 樹木は成長するほど CO<sub>2</sub> 吸収量が飛躍的に増加します。観光客の皆様が植樹した木は、シーニックの森として成長していきます。自分が植樹した木に愛着を持ち成長を、また現地に訪れて見てもらおう。そんなつながりも育てて行きたいと思っています。



### シーニックバイウェイ北海道推進協議会構成団体・機関

- 北海道商工会議所連合会、北海道経済連合会、北海道商工会連合会、北海道観光振興機構、日本観光協会北海道支部、日本旅行業協会北海道支部、北海道農業協同組合中央会、北海道林業協会、日本自動車連盟北海道本部、北海道市長会、北海道町村会、北海道、林野庁北海道森林管理局、経済産業省北海道経済産業局、環境省北海道地方環境事務所、国土交通省北海道運輸局、国土交通省北海道開発局

発行  
 シーニックバイウェイ北海道推進協議会事務局  
 TEL:011-709-2311 詳しくは ▶ URL : <http://www.hkd.mlit.go.jp/sbh/>  
 〒060-8511 札幌市北区北 8 条西 2 丁目 札幌第一合同庁舎 国土交通省北海道開発局 開発監理部 開発調整課 建設部 道路計画課




シーニックバイウェイ(Scenic Byway)とは、景観・シーン(Scene)の形容詞シーニック(Scenic)と、わき道・より道を意味するバイウェイ(Byway)を組み合わせた言葉。地域と行政が連携し、景観や自然環境に配慮し、地域の魅力を道でつなぎながら個性的な地域、美しい環境づくりを目指す施策です。



# シーニックバイウェイ北海道

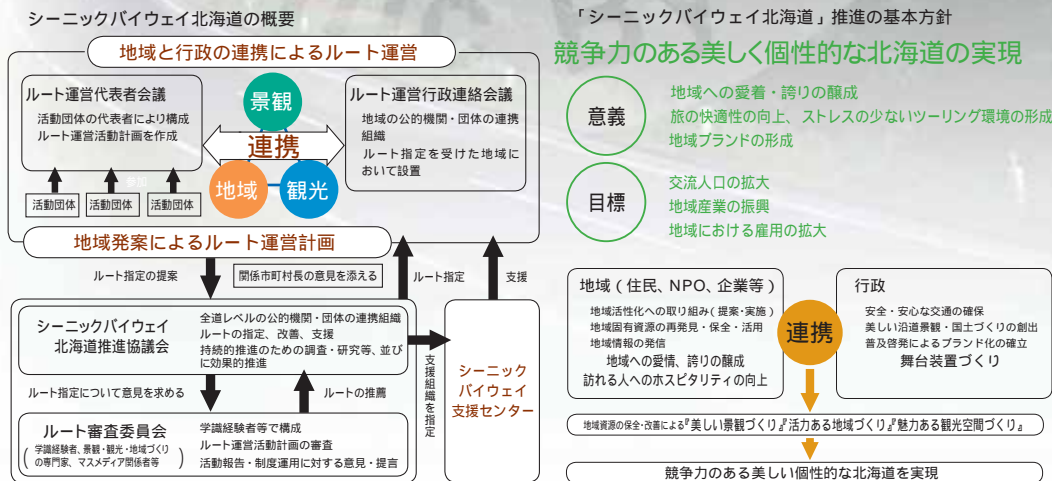
みちが繋ぐ美しい北海道づくりが始まります。

シーニックバイウェイ北海道は、みちをきっかけに地域住民と行政とが連携し、美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある観光空間づくりを提案します。平成17年度から本格的にスタートしました。



シーニックバイウェイ  
オフィシャルマークについて

地域の人たちが主体となって取り組む「美しい景観づくり」や「魅力ある観光空間づくり」の熱い心は訪れる人たちに感動のココロを呼びおこします。「心とココロ」が出逢う時「活力ある地域づくり」が動き出します。「道」をハートの形にしたオフィシャルマークは、いわば「シーニックバイウェイ制度の心」です。



- 平成 15 年 4 月 旭川～占冠ルート、千歳～ニセコルートの2つをモデルルートに指定。
- 平成 15 年 7 月 活動団体が認定され、シーニックバイウェイ北海道のモデルルートとしての活動をスタート。
- 平成 17 年 3 月 11 日 シーニックバイウェイ北海道推進協議会設立。
- 平成 17 年 5 月 9 日 支笏洞爺ニセコルート、大雪・富良野ルート、東オホーツクシーニックバイウェイの3つが指定ルートとして、函館・大沼・噴火湾ルート、釧路湿原・阿寒・摩周ルートの2つが候補ルートとして認定される。
- 平成 18 年 4 月 18 日 宗谷シーニックバイウェイが新ルートとして、南十勝夢街道、十勝平野・山麓ルート、萌える天北オロロンルートの3つが候補ルートとして認定される。
- 平成 18 年 11 月 13 日 函館・大沼・噴火湾ルート、釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイが候補ルートから指定ルートに認定される。
- 平成 20 年 5 月 12 日 萌える天北オロロンルートが候補ルートから指定ルートとして、どうなん・追分シーニックバイウェイ、トカプチ雄大空間の2つが候補ルートとして認定される。
- 平成 21 年 5 月 13 日 十勝平野・山麓ルートが候補ルートから指定ルートとして、札幌南シーニックバイウェイが候補ルートとして認定される。
- 平成 22 年 5 月 17 日 トカプチ雄大空間が候補ルートから指定ルートに認定される。

## 指定ルートの概要

指定ルートは、地域発案による「ルート運営活動計画」に基づき、美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力的な観光空間づくりに取組めます。なお、指定ルートは「行政連絡会議」が設置され、関係機関により各種活動への参加、連携した活動などが行われます。

## 候補ルートの概要

候補ルートは、ルート独自の地域活動を通して、地域の連携、人材の育成、地域資源の発掘などを進め、ルート全体の理念や目標の熟度を高めて、ルート指定を目指します。

# ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト

BEST SCENIC BYWAYS PROJECT

2008年度より成功事例の積極的創出や啓発・普及、広報活動での活用、民間企業等との効果的連携に向けた情報整理を目的に、2年以上の実績を持つルート活動等を対象とし、全道活動の参考となる、「ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト」を選定・公表しています。

## 2009年度最優秀賞



雪のアートプロジェクト「ウィンターサーカス」  
(大雪・富良野ルート)

冬の地域資源を活用した冬期観光活性化の取り組みとして、活動団体と住民、アーティストが協働し、ランド・アートを制作。夜は映像の投影やキャンドルによる灯りの演出なども行う。4回目となった2009年は全7会場で行った。



民間情報拠点「シーニックカフェ」の連携した取組み  
(釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ)

既存店舗を活用、カフェスタッフミーティングを開催し連携した地域情報拠点づくりを行う。ドライブ向けの企画として、マップの作成配布、オリジナルエコバッグの販売試行、地域振興イベントの企画、夜間店舗の利活用などを実施。

## 2008年度最優秀賞



Scenic Night 2008 ~ 灯りが繋ぐ雪の道  
(支笏洞爺ニセコルート)

千歳から恵庭、支笏湖、洞爺湖、ニセコ羊蹄山麓を結ぶ「支笏洞爺ニセコルート」で、一斉点灯日を設け、あかりで雪の道をつなぐ、幻想的な美しい空間を作り出した。2006年より開催、地域のイベントとして定着しつつある。



## 行政の取り組み例

### 景観視点場の整備

道路管理者と地域が連携し、来訪者が安心して利用できる駐車帯と、撮影スペースの整備を進めています。



### 活動団体等による清掃・美化活動

地域の活動団体等による、駐車帯周辺の枝払い、ごみ拾いなどの清掃・美化活動が定期的に行われています。



シーニックバイウェイ北海道

十勝シーニックバイウェイ

十勝平野・山麓ルート

テーマ：スケールは日本一 広さ・環境・ツーリズム・農

広大な十勝平野の西北部、日高と東大雪の山裾を巡るルート上に、希少な動植物が息づく原生林、訪れる人の心を癒す森と湖、エコツアーやグリーンツーリズムなどのあらゆる体験施設と、地域産業である「農」の素材を活かしたファームレストランなどが数多く点在し、食と農とアウトドアを満喫することができます。

〔活動方針〕  
「道とみち、街と町、現在と未来をつなぐ十勝平野・山麓ルート」活かそう・守ろう・地域資源



指定ルート



清掃 シーニック連携花壇 馬の道

十勝シーニックバイウェイ

トカプチ雄大空間

テーマ：十勝型産業の創出と人口増加

北海道・十勝の空の玄関口である帯広市をはじめ、周辺の6町を含む十勝中部エリアは、中心に広大な十勝平野、西に日高山脈、東に太平洋といふ恵まれた資源を持ち、また、広大で平坦な畑作酪農地帯という地域特性から「高規格幹線道路」「高所から地域を鳥瞰する」「先人の開拓の歴史」まで含めた四次元空間の魅力が他にないみどころを提供するエリアです。

〔活動方針〕  
「観光」ルートの地域資源発掘に力を入れ、魅力あるモデルルートを設定し、新しいメディアを活用して広く情報発信を行います。  
「地域づくり」ホスピタリティの向上、情報共有や地域住民との連携強化などによる人づくり・街づくりを推進し、十勝型産業の開発を目指します。  
「景観」美しい景観の発掘と、景観阻害要因となる看板の撤去等の整備、雄大な景観デッキの整備、カフェの整備を進めます。  
「環境」環境モデル都市・エリア実践のための連携を強化し、環境に関わる新産業による就業人口や移住・定住人口の増加を目指します。



指定ルート



PR・プロモーション事業 カフェサイン 十勝び丘展望台

十勝シーニックバイウェイ

南十勝夢街道

候補ルート

- 景観づくり、地域づくりの取り組み継続推進
- 連携した花の植栽
- 清掃活動の拡大
- 交通安全運動等の実施
- 情報ネットワーク構築と情報発信方法の検討
- 道の駅等を活用した情報提供システムの検討
- 情報拠点の設立、連携強化
- 広域連携と地域資源 PR のための活動
- フォトコンテストの実施
- エリアマップ、カレンダーの作成
- シーニックデッキの設置



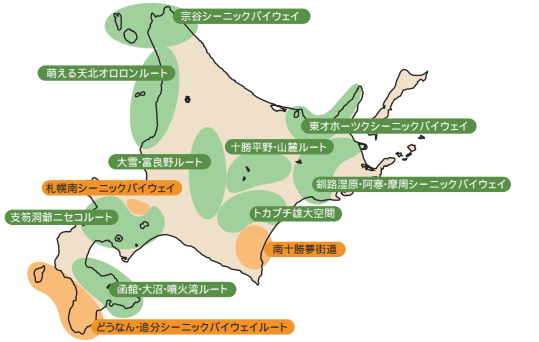
シーニックカフェちゅうらい運営事業  
フォトコンテスト及びカレンダー作成事業

シーニックバイウェイ北海道推進協議会構成団体・機関  
北海道商工会議所連合会、北海道経済連合会、北海道商工会連合会、北海道観光振興機構、日本観光協会北海道支部、日本旅行業協会北海道支部、北海道農業協同組合中央会、北海道林業協会、日本自動車連盟北海道本部、北海道市長会、北海道町村会、北海道、林野庁北海道森林管理局、経済産業省北海道経済産業局、環境省北海道地方環境事務所、国土交通省北海道運輸局、国土交通省北海道開発局

発行  
シーニックバイウェイ北海道推進協議会事務局  
TEL:011-709-2311  
詳しくは  
URL: http://www.hkd.mlit.go.jp/sbh/  
〒060-8511 札幌市北区北8条西2丁目  
札幌第一合同庁舎 国土交通省北海道開発局  
開発監理部 開発調整課  
建設部 道路計画課

シーニックバイウェイ北海道

ルート紹介



東オホーツクシーニックバイウェイ

テーマ：ロマンティックヒーリング・風を感じて走る道

知床、阿寒の2つの国立公園を有する東オホーツクシーニックバイウェイは広大な畑地景観、野趣あふれる山岳、ハクチョウが飛来する湖沼、原生花園、豊富な味覚、明瞭な四季など北海道観光のよさが凝縮されている地域です。また我が国唯一の流水地帯でもあり、人々の心を潤し、感動を与えてくれる憧れの地として道内外から多くの観光客が訪れています。

〔活動方針〕  
オホーツク海や知床連山などを美しく見せるための沿道の保全・啓蒙  
鮮明な四季の色彩を見せるための沿道の連携やビューポイントの創出  
風を感じさせるマグネットポイントの創出や滞在メニューの創出・連携  
農・水・林・地域文化資源の発掘や地域連携による地域情報の発信



指定ルート



シーニックデッキの利活用

東オホーツクシーニックバイウェイルートにおける情報発信

釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ

テーマ：神秘的で優れた自然のあり様を五感で感じるダイナミックルート

釧路湿原国立公園や阿寒国立公園をはじめとする世界的な観光地を含むルートです。手付かずの自然の残るラムサール条約登録湿地、釧路湿原を中心とした釧路湿原エリア、雄大な山岳自然景観に囲まれ、マリモの眠る阿寒湖を中心とする阿寒湖エリア、原始林に囲まれた神秘の湖、摩周湖や屈斜路湖を含む弟子屈エリア、なだらか続く牧草地と格子状防風林が独特の開放感を醸した中標津エリアの4つのエリアで構成されています。

〔活動方針〕  
美しく個性的な地域景観の形成、まちづくり世界に誇る地域自然の保護と利用  
「憧れ」を「大好き」に変えるひがし北海道の旅  
「顔が見える」、「旬が伝わる」活きた情報の発信



民間情報拠点「シーニックカフェ」道東ウォーキングツーリズム推進活動の連携した取り組み



指定ルート



ルート巡回パネル展  
「懐かシーニックパネル展」

### 函館・大沼・噴火湾ルート

指定ルート

テーマ：人と人とをつなぐ道

空路・海路・鉄路における北海道の玄関口を持ち、「北海道において北海道にあらず、されど東北にあらず」の独特な土地柄を体感できます。函館山をどまぐ異国情緒あふれる街並み、乗馬やカヌーなどの自然体験ができる大沼周辺、古代ロマンあふれる縄文遺跡群などがあり、都市景観から農村景観、漁村景観と様々な姿を見せてくれます。また地域住民と来訪者の交流を深める企画として「シーニックdeナイト」、「シーニックの森づくり」、「シーニック清掃活動」などを開催しています。

〔活動方針〕

- 地域の誇れる景観を掘り起こし、保全・改善、活用する
- 地域一人ひとりが地域資源の大切さを知り、そしてそれを活かす活動を追求する
- 自然の尊さ、人のぬくもりを伝える
- ITや地域メディア等を活用した効果的な情報を共有し、発信する



シーニックの森づくり



シーニック清掃活動



函館パリアフリーボランティア



シーニック de ナイト



### 支笏洞爺ニセコルート

指定ルート

テーマ：美しい湖と秀峰、火山に出逢えるルート

支笏洞爺国立公園とニセコ種丹小樽国立公園の2つの国立・国定公園を走る支笏洞爺ニセコルートは美しい湖と秀峰、火山に出逢える地域です。支笏洞爺ニセコルートは3つのエリアで構成されています。

〔活動方針〕

- ウェルカム北海道エリア
- 住民や沿道の企業の協力による北海道の玄関口としての活動展開
- 様々な活動を通じた新たな活動団体の参加促進と地域の連携
- 洞爺湖エリア
- エリアの魅力を高めるような持続的な活動の体制づくり
- 各種活動を通じた地元の子どもたちを含めた積極的な人材育成
- ニセコ羊蹄エリア
- 地域コミュニティと連携した羊蹄山や尻別川の景観づくり・自然環境の保全
- きめ細かな情報の発信と地域とのふれあいを大切に観光の推進



ビューティフル・ロード おもてなしで繋ぐ道（沿道美化活動）



暮らしを伝える活動地域ガイド付き観光バスツアー



環境と景観を守る活動安全・安心を提供するルート



### 宗谷シーニックバイウェイ

指定ルート

テーマ：あたたかい最北のみち

利尻礼文サロベツ国立公園を有する宗谷シーニックバイウェイは、秀峰利尻富士、水平線までつづくサロベツ湿原、海拔0mから高山植物を見ることができる礼文島、雄大な周水河地形の宗谷丘陵など厳しい環境に育まれた豊かな自然が残る地域です。また自然を活かした広大な酪農場、豊かな漁場もあり、食による感動も与えてくれる日本最北エリアを形成しています。

〔活動方針〕

- 魅せるための景観形成
- 守り、育てる環境保全
- 「ひと」と「もの」をつなぐ情報発信
- おもてなしの心をもった観光演出
- 地域における連携活動



観光業界の広域連携実現へ向け



海岸清掃



流木プランター



ポニーを走らす会



### 萌える天北オロロンルート

指定ルート

テーマ：暮らしぶりの映し。北の光が続く道。

北海道の日本海側北部に位置し、厳しく、そして美しい自然の中で営み続けてきた「暮らしぶりの映し」が魅力である萌える天北オロロンルートは、日本海オロロンラインとしても親しまれ、暑寒別岳等の山並みや、天売、焼尻島への眺望、夕日の階段等、美しい自然景観があります。

〔活動方針〕

- 愛着と誇りを持つ郷土の景観の保全と創出
- 自然の恩恵である地元食材のブランド化と魅力の発信
- 地球に優しい『くらしぶり』のお手本づくりと促進
- 暮らしに根ざしたおもてなしによる暖かい交流の魅力づくり
- 先代の暮らしぶり新たな価値観を将来に伝え楽しむ



ヒラメ底建網オーナーin選別



地域情報発信プロジェクト

### 大雪・富良野ルート

指定ルート

テーマ：四季を彩る花人街道

大雪山・十勝岳連峰の裾野と山懐を通る大雪・富良野ルートは、パッチワークのように美しい丘陵田園やラベンダーなどの花々に彩られ、映画やドラマ、CMの舞台となっています。ジャガイモや麦など良質の農産物にも恵まれるほか、十勝岳温泉や吹き上げ露天風呂など数多くの温泉がわき、ゆったりとした時の流れと共に心が癒される環境があります。

〔活動方針〕

- 大雪山・十勝岳連峰を美しく見せ、丘陵地の田園景観を保全する
- 沿道景観を整えるとともに、コリドーとしての連携や参加意識を醸成する
- ユニバーサルデザインの推進と田園型リラクゼーション観光の充実
- 農業と連携した観光のしくみづくりやオペレーション機能の充実



地域の情報発信・PR「情報拠点」



ゴミゼロ



深山峠花植栽



雪のアートプロジェクト「ウィンターサーカス」

### どうなん・追分シーニックバイウェイルート

候補ルート

- 歴史・文化を活かした誇りある地域づくり
- 各地域を結ぶ歴史の道づくりの実施・道南の歴史、文化を正しく伝える広報活動と学習講座の開催

- 豊かな景観を活かした優しい環境づくり
- 景観資源の発掘、環境保全と育成及び啓蒙活動の実施

- 地域産業を活かした食や体験を楽しむ観光づくり

- 交流観光プログラムの作成・地域産業による体験観光の開発と受入態勢の構築・地域産品による食の開発と新たな観光ルートの構築

- 情報と人材を活かした輝く地域づくり
- 情報発信の態勢づくり・地域の人材の発掘、活用と後継者の育成



殿様街道ウォーキング - 歴史がつなぐ交流のみち-



威風丸の眠るサラキ峠

### 札幌南シーニックバイウェイ

候補ルート

札幌の玄関口にふさわしい魅力あふれる景観づくり

- フラワーロードの整備
- 花めぐりツアーの実施
- 雪あかりイベントの連携

自然・歴史・文化を伝え、いきいきと暮らせる地域づくり

- 全道一斉ごみ拾い運動への参加
- 地産地消フェアの開催
- 歴史めぐりツアーの実施

南区を肌で感じる体験・回遊の観光振興

- 施設周遊スタンプラリーの実施
- 施設体験ツアーの実施
- 特産品のブランド化の推進



シーニックバイウェイ魅力発見ツアー



シーニックバイウェイスタンプラリー in 南区